



Rotary



IFMR  
International Fellowship of  
Motorcycling Rotarians  
JAPAN



ロータリー親睦活動グループ バイク日本支部 (第5G)

Rotary International District 2510

GOVERNOR'S

Monthly Letter

2022-2023 ガバナー月信

5

2023 May

No.11

Rotary



イマジン  
ロータリー

国際ロータリー第 2510 地区

2022-2023 年度 ガバナー 石丸 修太郎

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西 11 丁目 4 大通藤井ビル 7F

TEL (011) 207-2510 FAX (011) 207-2512

E-mail: rid2510@pxva.ne.jp <http://rid2510.org>

# 2022-2023年度 国際ロータリーのテーマ 「イマジン ロータリー」



## 国際ロータリー第2510地区 2022-2023年度テーマ

# 「ロータリーに想いを馳せる」 ～明日のロータリーに夢を込めて～



### 【地区目標】

- ① クラブの将来像を打ち立てる
- ② より多くの会員の参加を得てクラブにおいて新たな事業に取り組む
- ③ 青少年への支援を発展・充実させる
- ④ ICTも利用して交流の輪を広げる

## CONTENTS

●ガバナーメッセージ	1	●米山奨学生自己紹介	15
●トルコ大地震災害支援義捐金についてのご報告	2	●新入会員セミナー開催	29
●第3グループIM開催報告	3	●交換留学生より	31
●第2グループIM開催報告	6	●国際大会案内	34
●第10・11グループ合同IM開催報告	8	●ガバナー四方山話⑩	36
●岩見沢東RC創立40周年記念式典・祝賀会開催	10	●ガバナー補佐自分を語る	37
●第63回小樽市内優秀高校生卒業表彰を終えて	11	●新入会員紹介／月信委員会からのお知らせ	38
●みんなに公平か、あるいは公正か？	12	●訃報	39
●米山奨学生オリエンテーション／カウンセラー研修	13	●表紙の解説（第5グループ）	40



## ガバナーメッセージ

国際ロータリー第2510地区

2022-2023年度ガバナー 石丸 修太郎  
(札幌西RC)

4月は1日の第2グループのIMで幕開けでした。滝川市で行われましたが、自衛隊OBの方からの講話を聞きそして久しぶりの懇親会には札幌花街から来ていただいた御姐さんたちの踊りもあり華やかな時間を過ごすことが出来ました。

その翌週8日は、第10と第11グループの合同IMでした。函館の駅前のホテルで開催され、懇親会では生バンドの演奏もあり、泊りがけで函館の夜を楽しみました。

翌日の9日、日曜日には、札幌で米山奨学生の新たオリエンテーションとカウンセラーを交えた歓迎会が開催されました。17名の新しく奨学生となった皆さんの初々しい挨拶は素晴らしいものでした。ハラルの方も居ましたが、懇親会もとても良い雰囲気でした。

その翌週は小樽で地区研修・協議会ということで土曜日に打ち合わせ会と懇親会があり、久しぶりに小樽の夜を楽しみました。4年ぶりのフルスペックの地区研修・協議会には、500名近いロータリアンが集まり大賑わいでした。

18日の夜は岩見沢東RCの創立40周年記念祝賀会に参加してきました。こじんまりとした中にもアットホームな温か味のある会でとても素敵なものでした。

そして22・23日は4年振りの地区新入会員セミナーを由仁で行われました。29名の新入会員の皆さんが参加され、まず、まじめにロータリーの歴史やルールや考えについて学び、その後グループに分かれてディスカッションを行い、活発な討議が行われとても有用な時間であったと思います。

その間、東京でロータリー活性化セミナーが2日間にわたって開催され、会員増強や財団・米山の話、そしてローターアクトの話がされました。このセミナーの最後にガバナー会が開催されましたが、初めて、ガバナー・ガバナーエレクト・ガバナーノミニーの3世代のガバナーが集まり意見交換が行われとても有意義なものでした。

と、イベントの多かった4月でしたが、いろいろな人との出会いがあり、ロータリーの楽しさを実感することが出来た月でした。

さて5月は青少年奉仕月間です。地区ロータリーとしてはインターアクト・青少年交換・RYLAを青少年奉仕委員会の下で行っていますが、私のイメージでは、米山奨学生もローターアクトもロータリアンとしては若年層に対する奉仕活動だと思います。

また各クラブで行われている、地域の青少年のための様々な活動、野球をはじめとする運動の支援、交通安全活動、図書の寄贈、奨学金の支給、子ども食堂の支援などなど多くのロータリークラブで行っている活動はとても素晴らしいものだと思います。

社会で良いことをするのがロータリーですが、次世代へ良いことをするのがその頂点であると思います。子供たちが夢を持ってそれを実現するために様々なことに挑戦していくことを応援出来たらなんて素敵なのでしょう。

といいつつゴールデンウィークは、少しのんびりさせていただきますね。

# トルコ大地震災害支援義捐金についてのご報告

国際ロータリー第2510地区

2022-2023年度ガバナー 石丸 修太郎  
(札幌西RC)

月信4月号にも掲載いたしましたトルコ大地震の義捐金について、4月20日にトルコ地区に着金したとのご連絡をいただきました。多くの地区ロータリアンの皆様のご厚情に感謝いたします。

Earth Quake Relief Funds From Japan List

Dist	Zone	JPY¥	First name	Family name	Email
2500	1	2,244,783	Sachiko	Hisaki	info@rid2500.com
2510	1	2,415,246	Syutarou	Ishimaru	rid2510@pxva.ne.jp
2520	1	2,000,000	Hisazumi	Amanuma	ri2520@r4.dion.ne.jp
2530	1	2,887,000	Masamichi	Sato	22-23sato@ri2530.com
2540	1	1,033,000	Tuneo	Takasaki	rid2540g22-23@d.email.ne.jp
2550	1	1,400,000	Naomichi	Sanuki	m2550@agate.plala.or.jp
2560	1	2,485,276	Hideki	Takahashi	h.takahashi@rid2560niigata.jp
2580	2	3,420,000	Fumio	Shimamura	office@rid2580.org
2590	2	3,500,000	Yuji	Shimura	g-office@rid2590.jp
2600	2	2,235,664	Hiromithu	Kamisawa	info-1@rid2600jp.org
2610	2	2,600,000	Sinichi	Kurokawa	governor@rotary2610.gr.jp
2620	2	4,000,000	Ryouzou	Asahara	22-23g.asahara@ri2620.gr.jp
2630	2	3,558,973	Shinji	Takahashi	2223@rid2630.org
2670	3	5,000,000	Hikaru	Hatta	info@rid2670gov22-23.jp
2680	3	4,080,000	Eiki	Sakaue	rid2680@abelia.ocn.ne.jp
2690	3	3,143,718	Shigeo	Tomosue	office@2022-rid2690.jp
2700	3	4,242,903	Hidetoshi	Nishijima	ri2700go@2700rid.com
2710	3	3,421,213	Yoshioki	Ishikawa	info@ri2710.com
2720	3	2,233,994	Takashi	Horikawa	ri2720gof@eos.ocn.ne.jp
2730	3	1,986,505	Fumiharu	Yamanouchi	yamanouchi2730@alphanet.jp
2740	3	3,247,174	Syunpo	Uemura	ri2740uemura@shunyoukai.jp
2750	2	6,181,168	Tameichi	Tomizawa	rotary@rid2750.org
2760	2	4,963,484	Yoshihisa	Kagohashi	governor22-23@rotary2760.org
2770	1	4,500,000	Masakuni	Hosobuchi	ri2770@ri2770.com
2790	1	4,500,000	Sumio	Ogura	22-23gov@rid2790.jp
2800	1	1,684,000	Takako	Sato	office@rid2800.org
2820	1	2,000,000	Haruo	Ohno	22-23@rid2820.jp
2830	1	1,640,865	Tunehiro	Tanaka	rid2830@outlook.jp
2840	1	2,000,000	Masami	Nakano	nakano@rid2840.jp
		<b>88,604,966</b>			

## 第3グループ IM開催報告

### 第3グループガバナー補佐 松下 早苗（栗山RC）

第3グループのIMは「イマジン&クリエイト」というタイトルで2023年2月25日に栗山町で開催いたしました。コロナ禍ということもあり開催日程が二転三転し、ご迷惑をおかけしたにもかかわらず大勢の皆様に参加していただき栗山RC一同感謝の気持ちでいっぱいでした。

工藤会長の点鐘、伊藤IM実行委員長の歓迎の挨拶で始まりました。当クラブの名誉会員でもある佐々木栗山町長からもロータリー活動に対し敬意と感謝の意を頂きました。

松下第3グループ松下ガバナー補佐からはロータリーは100年以上前から世界に良いことをしようという気持ちで繋がっています。きっと何かできると信じています。IMを通じて絆を深めましょうと挨拶を頂きました。

石丸ガバナーからは「IMではそれぞれのクラブの個性、楽しさが伝わります。クラブの中で何をすべきか今年は奉仕100年と世界中で決めてから節目に当たります。今日のIMで何か一つ感じ取れるものがあると素敵だと思う。」とのご挨拶を頂きました。



基調講演は「栗山高等学校女子硬式野球部による高校への波及効果と町おこし」という演題で女子硬式野球部監督の今由紀子氏を迎える予定でした。今氏は天塩町出身で2002年女子硬式野球の日本代表に選ばれています。この年の世界大会では準優勝に貢献、2003・2004年の世界大会で優勝。2006年ワールドカップではアメリカに敗れ準優勝。2008年からはワールドカップを5連覇し、一塁手でベストナイン賞、2010年は主将、2012年は打点王輝かしい成績を収めています。輝く笑顔の素晴らしい監督です。

しかし、開催日が何度も変わり今監督と日程が合わなくなってしまうピンチを迎えました。すでに皆様には演題を報告済みでこれ以上変更を繰り返したくないと悩んでいるときに工藤会長がポツリと「ロータリアンはそこに行くまでの過程に興味があるんじゃないかな」とつぶやきました。

ーピンチはチャンスですー

当クラブの会員である吉田栗山教育長に立ち上げまでの苦労話を是非話して欲しいとお願いしました。二つ返事で引き受けて頂き、栗山高校の駒井校長と二人で、掛け合いでやります。と決まったのはIMの数日前でした。

台本もなく始まった基調講演は私たちメンバーも内容はわかりませんでした。ロータリーで築いた信頼と友情で不安は全くありませんでした。

多難な道のりでしたが、このお二人のポジティブなキャラクターでワクワクさせられる内容になったと思います。



吉田) 令和3年10月に教育長に就任し、すぐに女子野球部の立ち上げと介護福祉学校を軌道に乗せる命題を受け始動しました。高校は福祉をテーマにし普通科を前提とした女子硬式野球部を活かすための魅力づくりを文部省の高専一貫クラブ間開発事業に手を上げました。全国から生徒募集が可能になり、全国発信をする。「やってみなければわからない」の精神で道教委に依頼。介護の専門学校は全国で100校以上が亡くなっている現在、将来を見据えていきたい。

駒井) 令和4年4月栗山高校着任。課題は①定員割れ対策②地域との連携③新教育課程の対応の三つです。吉田教育長の考えをインターネットで知り、地域が栗山高校を大切に考えているという思いが伝わりました。教育課程を急遽変更し道外生徒募集に道を拓きました。チャンスをつかむ。専修学校の関係、福祉の学びの関係、女子硬式野球の関係。一石三鳥です。

吉田) 1年前に決まっている教育課程を変えることは大変なことで1週間しか余裕が無い中でしたが3日間でまとめました。「夢は追いつけるもの」「でも捕まえなければ意味がない」という話をさせて頂き、「夢を語りながら」二人で空知管内中学校を廻りました。

駒井) 教育長が同行してくれたことは嬉しかった。福祉が学べる普通科ということで教育長と。女子硬式野球ということで監督と行脚をしました。

吉田) 不登校の子の話があったとき「栗山高校を人生チャンスのスタートとして使ってもらえないか」と駒井校長の言葉に感銘を受けたと中学校で好意的に受け止めて頂いた。今年是实现できませんが教育は人なのだ実感しました。何事をなすにも地域に溶け込まないとなし得ません。

この二人がお互いをリスペクトしながらの二人三脚、地域を大切に巻き込んでいく姿は私たちロータリアンの心に響いたと思います。

追記：昨年度栗山高校の新入生 25名  
今年度栗山高校の新入生 50名  
昨年度女子硬式野球同好会 生徒 2名 監督 1名  
今年度女子硬式野球部 生徒 15名 監督 1名 コーチ 1名

各クラブ発表のテーマは「ロータリアンのココロをひらく取り組み」についてです。

**江別ロータリークラブ 龍田昌樹幹事**

経験を積んだ先輩会員が在籍し、経験の浅い会員と和気あいあいと意見を交わしながら例会を過ごしています。コロナ禍も淡々と親睦例会を行っていました。

**江別西ロータリークラブ 宍戸昭会長**

例会の変更は多かったですが、ライングループで連絡を取り食品ロスもなくせました。

**岩見沢ロータリークラブ 西方洋昭会長**

炉辺談話例会を少人数のテーブルで、若いメンバーとキャリアのあるメンバーを交え開催しました。「メーキャップに行こう」というのにも取り組みたい。

**岩見沢東ロータリークラブ 伊澤珠樹会長エレクト**

白老RCに7~8人でメーキャップ訪問しました。帰りは焼肉、ウポポイ見学で好評でした。

**栗沢ロータリークラブ 金山英昭会長**

職業奉仕委員会と親睦委員会企業訪問兼観楓会をしました。エスコンフィールド見学では担当者に誘致から現在に至るまでの苦労話の説明を受けました。

**当別ロータリークラブ 古谷陽一会長**

新しいことを実践すること。ロータリーの為になる研修事業を考えていきたい。

**美唄ロータリークラブ 大坪誠治会長**

いろいろな機会を利用して、ロータリーの友情の輪を通じて楽しいロータリーライフを送れるようにしたい。

**栗山ロータリークラブ 住友茂幹事**

自分たちが楽しくなければ他人も魅力を感じません。やりがいのある活動によりココロを開き互いに理解を深め会員増強を目指します。

8クラブ発表後、石丸ガバナーから「いろいろなクラブがあって面白い。活動を引き継ぐことが大切。役員は単年度で変わるが地元との交流は年数をかけ認識してもらうのが効果的。その中でプラスアルファのことが出来ないか、それを考える事がロータリアンとしての喜びなんじゃないかと思う。」と講評をいただきました。

最後に次期IM開催地である江別ロータリークラブの中川和昭会長から江別でお会いしましょうと力強いご挨拶を頂き、菊田政徳次期ガバナー補佐からは熱い思いをお聞きました。

最後に松浦ガバナーエレクトからは今回の栗山高校の取り組みは地域に希望を育てていく基本になるものだと思います。希望をいかに育てていくか、作っていくか、見つけていくか難しい事ではありますが、それを実践することでオンリーワンチームが出来るのではないかという未来にむかっていく励ましの言葉を頂きました。

皆さんにお伝えしたい内容だったので大変長くなってしまいましたが第3グループのIMの報告とさせていただきます。



第3G 8クラブの発表



松浦GE

## 第2グループ IM開催報告

第2グループガバナー補佐 高山 訓正（滝川IRC）

### IMテーマ：世界の侵略事件と日本の防衛体制

2023年4月1日（土）滝川ホテル三浦華園に於いて、滝川市長前田康吉様、石丸修太郎ガバナーをはじめご来賓、第2グループ会員総勢130名の皆様にご出席いただき第2グループ都市連合会が開催されました。

2018年9月を最後に新型コロナウイルスの影響で開催することが出来なかったIMですが、昨今日本でも防衛費の増額で議論が始まっていることも踏まえ世界平和の維持と貢献を目的とする我がロータリークラブも保身のための侵略に対する知識を深めると共に危機管理能力を高める必要があると思いIMテーマを「世界の侵略事件と日本の防衛体制」としました。講師に陸上自衛隊滝川駐屯地元司令北村昌也様をお招きし、日露戦争、第二次世界大戦から冷戦下の戦い方、イラク戦争、そしてロシアのウクライナ侵攻、最近の軍事事情など、組織の団結・士気高揚、クラブや職場のリーダーシップにも繋がる大変貴重な講演となりました。



石丸 修太郎ガバナー



高山 訓正  
第2Gガバナー補佐



講師 北村 昌也 様



歓迎の挨拶  
滝川IRC藤井謙和会長



宇戸 啓隆  
第2グループ次年度ガバナー補佐



堀江 和美  
第2グループ直前ガバナー補佐



懇親会



開会の挨拶  
宮崎英彰IM実行委員長



乾杯  
芦別RC須藤美紀子 会長



石丸修太郎ガバナーと  
赤平ロータリーアクトクラブの皆さん



さっぽろ名妓連による 艶やかで、上品で・・・、優雅なひととき。



次年度開催クラブ会長挨拶  
赤平RC 三上洸二 会長



結びの挨拶  
砂川IRC 造田孝志 会長



閉会の挨拶 谷口正樹 IM副実行委員長



手に手つないで

## 第10・11グループ合同IM開催報告

### 第10グループガバナー補佐 玉井 清治（函館亀田RC）

4月8日（土）石丸修太郎ガバナー、大日向豊吉パストガバナーをお招きし、第10グループ71名、第11グループ64名、合計137名様のご参加をいただき「第10・11グループ合同インターシティミーティング」がフォーポイントバイシェラトン函館にて開催されました。

石丸修太郎ガバナーの提唱する「ロータリーに想いを馳せる」～明日のロータリーに夢を込めて～から、今回のIMのテーマを「それぞれのロータリークラブの現状と未来について」と題し、各クラブ会長より約10分間のスピーチをいただきました。また、後半については「YouTubeからロータリーを探る」というタイトルのもと、いろいろな角度からのロータリーをYouTube等の動画を見ながら全員で考えてみました。

振り返れば年度初頭、新型コロナウイルスが猛威を振るっており、IMを開催するか否か第11グループ担当の柏木秀之ガバナー補佐と何度も議論を重ね、悩んでおりましたが、過去4年間開催されていないことから、各クラブ間の親睦や交流が停滞し、会員のモチベーションを高めるためにも、重要性を感じて実施を会長幹事会に諮ったところ、満場一致にて決定いたしました。ただし、感染防止が第一のため、状況をみながら直前の中止もやむを得ないという条件付でした。しかし、状況も良くなり開催できたことは、何よりも嬉しかったことで、開催当日はふたり手を取り合って喜びました。

各クラブ会長さんの熱い想いが参加者に伝わり、多様な考えを収得でき、クラブの永続的繁栄に繋がったと私は確信しております。ロータリーの素晴らしさはServiceの実践にあります。中止を決めることや、それを踏襲することより「みんなのためになるかどうか」を心に植え付け、取り組めたことがガバナー補佐として感無量でした。

IM終了後の懇親会では、参加者のテーブル配置もクラブで固まることのないよう、くじ引きでの指定席とし、また、若者の「ビッグバンド演奏」も大好評で、盛大に楽しく皆様談笑しておりました。

開催にあたり、IM実行委員長の田嶋英人様はじめ、五稜郭ロータリークラブの皆様にご心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。



< I M役員 > 敬称略・順不同

国際ロータリー第2510地区ガバナー	石丸修太郎 (札幌西RC)
I Mリーダー ガバナー補佐 (第11グループ)	柏木秀之 (函館五稜郭RC)
I Mリーダー ガバナー補佐 (第10グループ)	玉井清治 (函館亀田RC)
ホストクラブ会長	小林大輔 (函館五稜郭RC)
ホストクラブ副会長	能戸彰 (函館五稜郭RC)
ホストクラブ幹事	星井英人 (函館五稜郭RC)
I M実行委員長	田嶋英人 (函館五稜郭RC)
I M実行副委員長	江頭進 (函館亀田RC)
I M実行幹事	濱中公也 (函館五稜郭RC)
I M S A A	前田健二 (函館亀田RC)
I M会計	横岡孝一 (函館五稜郭RC)
I M司会	渡辺宗起 (函館五稜郭RC)

< I M実行委員会 > 敬称略・順不同

総務： 後藤広隆委員長 渡辺宗起副委員長 廣田友博委員

会場・接待： 福崎進一委員長 高田元樹副委員長 窪田良弘委員 山田信一委員  
山矢卓委員 竹内委員 高田委員 小形委員 鈴木委員 大日向きよし委員  
川村隆夫委員 渡辺宗起委員 菊池委員 福崎進一委員

登録・受付： 平林秀樹委員長 川村隆夫副委員長 石坂仁委員 村越圭太委員  
清田真人委員 石尾清広委員

記録： 長浜康治委員長 大日向きよし副委員長 高橋昌大委員

S A A： 前田健二 S A A 横山肇副 S A A

バンド演奏： Big Band F# の皆様



## 岩見沢東ロータリークラブ創立40周年記念式典・祝賀会開催

40周年実行委員長 伊澤 珠樹

4月18日(火) 17時より、岩見沢平安閣において、当クラブ創立40周年の記念式典及び祝賀会を開催致しました。当クラブは昭和58年に岩見沢ロータリークラブをスポンサークラブとして発足したクラブで、この度、無事に40周年を迎えることが出来た次第です。

式典出席者は、石丸修太郎ガバナー、嵯峨義輝パストガバナーほかご来賓5名、元会員5名、元米山奨学生1名、現会員11名、事務局職員1名、計23名でございました。

式典が始まり、歌唱したロータリーソングは「ありがとうは私から」という楽曲でしたが、これは、当クラブOBの堀昭良(ホリアキヨシ)氏が作詞されたものです。

藤田会長の歓迎の言葉に続き、松野哲(サトル)岩見沢市長、及び、石丸ガバナーから親しみの込めたご挨拶をいただき、また、スポンサークラブである岩見沢クラブへ「感謝の盾」をお贈りしたときには、西方洋昭会長から大変ご丁寧なお言葉をいただきました。

永年表彰の方々への記念品贈呈に続き、現会員で最もロータリー歴の古い細谷会員が「岩見沢東ロータリークラブの歩み」と題した記念卓話を行って、式典を終了致しました。

続いての祝賀会は、嵯峨パストガバナーの乾杯の音頭で始まり、和やかな祝宴となりましたが、その中で、藤田会長が作製した記念DVDが映写され、そこには創立から現在までの古い写真のほかに、現会員一人一言の動画も収められており、後日、見返すたびに、懐かしく省みることができるのではないかと思います。

最後に、輪になっての「手に手つないで」の後、松下早苗ガバナー補佐の三三七拍子で、祝賀会を賑やかに終わることができました。

式典司会の小倉会員はいつものように歯切れ良く、祝賀会司会の長田会員はいつものようにユーモア溢れ、また、小泉事務員はお洒落な「しおり」を作成、元米山奨学生のカヌンさんはご来賓にリボンをつけてくれるなど会員並みのお手伝いをし、また、ほかのメンバーもそれぞれ自分の役割を果たすなど、当クラブの一致団結力が十分に発揮された催しだったのではないかと考えています。

日頃、親しくお付き合いしている第3グループの会員の方々をお招きできなかったことは心残りですが、この40周年を節目として、当クラブ再出発の契機としたいと思います。

また、石丸ガバナー、嵯峨パストガバナー、西方会長には、打ち上げの二次会にもご参加いただき、大変光栄に感じております。

ご来賓の方々、また、スポンサークラブである岩見沢クラブ、及び、第3グループの各クラブの方々など皆様方に、厚く御礼を申し上げる次第です。



# 第63回小樽市内優秀高校生 卒業表彰を終えて

2510地区第6グループ 小樽南ロータリークラブ

今年2月4日に「第63回小樽市内優秀高校卒業生表彰」が行われました。本事業は、当クラブが1960年2月5日創立・2月12日RI承認・設立され、その年の1960年10月7日、クラブ協議会において、「3月に優良高校卒業生の表彰を、社会奉仕委員と真心箱委員が協力の上計画されたい」と勧告を受け、第1回目の表彰式がその年開催されてより当クラブの継続事業として続けられてきました。現在は青少年奉仕委員会が主体となり「小樽市内優秀高校卒業生表彰式」として行われてきております。対象の高校は小樽市内の支援学校、聾学校を含めた全日制9校そして定時制高校2校を含めた11校で各校より推薦を頂いた学生に表彰しております。毎年、地元の新聞や情報誌に掲載されておりますが、2015年2月20日の第55回以降3年間は、STVテレビの「小樽フラッシュ・ニュース」にも取り上げられました。コロナ禍の中では、場所を変えて行ったり、表彰式はやらずに記念品の配布のみにとどめたりしながらも途切れる事もなく続けられてきました。



今年2月4日に第63回目の式典で、新たに11名の卒業生が表彰されました。これまで受賞された生徒数は、延べ750名に達しております。

受賞者には、受賞者紹介と共に地元小樽で作られた硝子製の盾が送られ、当クラブ山村会長より「これからの人生を希望と誇りを持って生活してください。我々ロータリアンの胸に基づく立派な行動・人格の形成・職業において道徳的水準を高め、社会に奉仕し立派な人間になることを心から願う」との祝辞を贈らせて頂きました。

現在、多くの受賞者が世の中で活躍していることと思っておりますが、ここ数年は高等学校も統合等で少なくなっているものの、小樽南ロータリークラブの継続事業として今後も未来を担う学生の目標になる表彰式に行きたいと考えております。





## みんなに公平か、あるいは公正か？

国際ロータリー第2510地区

パストガバナー

小林 博  
(札幌北RC)

「4つのテスト」の2番目に「みんなに公平か？ (Is it fair to all concerned?)」というのがあります。

「公平」というと「みんなに平等にしているか」というように聞こえてきます。ところで4つのテストの「fair」の真意はみんなに「公平」ではなく、「公正」という意味ではないでしょうか？

例えばスポーツの「フェアプレー」は正々堂々、不正をしない、ということが公正の意味なのです。ですからfairは「公平」ではなく、本来「公正」と訳したほうがよかったのではなかったか。蛇足ながら「**公正**取引委員会」というものがありますが、「**公平**取引委員会」というのはありません。

ところが、辞書によれば「公平」という言葉のなかに「公正」という意味合いも入っているようですから、公平という言葉が間違っていたわけではありません。ただ、直感的には「公平」より「公正」の方が適切な言葉でなかったかと思うのです。

単に言葉の問題ですから大事なことはありません。ただ私達が歌う「みんなに公平かどうか」のなかに、少なくとも「みんなに**公正**かどうか」の意味合いが強く入っていることを承知いただきたいと思います。

時代は変わりました。4つのテストが出来てから凡そ90年経ちます。世のなか人間の尊厳とか人権問題がクローズアップされてきました。さらには多様性を尊重する風潮も高まってきました。「4つのテスト」の作られた時代には、そういうことが問題になったことは恐らくなかったであります。

ところがいまは違います。どんな人でも、人種・性別・年齢に関係なくこの世に生を受けた以上、すべての人が生きる権利、つまり人間として当然の基本的な「人権」があります。人権尊重の精神はいま世界の大きな動きになっています。さらにはマイノリティの人達に対する公平な対応も要求されるようになってきました。全ての人々が平等に、公平な人権が与えられるべきものだからです。

したがって、4つのテストの日本語への翻訳にあたって、むかし英語の「fair」を「公正」ではなく「公平」と訳したのも、恐らく数10年先の「現在」の人権問題、多様性の尊重をも先読みされた先人の鋭い感性と英知があったからでなかったか、といま改めて感服している次第です。

# 2023-24学年度米山記念奨学生 オリエンテーション／カウンセラー研修

米山記念奨学会・学友委員会 委員長 入井浩樹

2023年4月9日に2023-24学年度米山記念奨学生オリエンテーションと新世話クラブカウンセラー研修がロイトン札幌にて行われました。

2023-24学年度の新米山記念奨学生は18名で内1名が9月入学となります。国別ではドイツ1名、モンゴル1名、マレーシア2名、ベトナム2名、サウジアラビア1名、スリランカ1名、韓国2名、中国6名、台湾2名です。

参加者数は新奨学生17名、カウンセラー19名、ご来賓様とロータリアン（委員会委員含）が21名で、総勢57名で行われました。ご来賓には公益財団法人ロータリー米山記念奨学会嵯峨義輝理事（PG）様、安孫子建雄評議員（PG）様、福井敬悟財務委員（PG）様にご出席を頂きました。

カウンセラー研修は、総合司会に米山記念奨学・学友委員会原一彰副委員長が担当し14時から行われました、開会挨拶に米山記念奨学・学友委員会入井委員長が「今日は新奨学生と初対面になります、新奨学生は緊張をしていますので笑顔で接してあげてください。」と挨拶をし、嵯峨理事様からは「いよいよ米山奨学事業の新たな一年が始まります、新奨学生に楽しい思い出ができるようにご尽力ください。」とご挨拶を頂きました、また石丸修太郎ガバナーからは「カウンセラーは掛け替えの無いお仕事だと思います、新奨学生にもカウンセラーにも楽しい思い出ができるようご尽力ください。」とご挨拶を頂き研修が始まりました。

カウンセラー研修は米山奨学生研修委員会の米塚 豊副委員長が担当を致しました、研修のポイントは「個人情報の管理、危機管理、パワハラとモラハラ」でした。

続いて15時30分より新奨学生と新カウンセラー合同のオリエンテーションが開催されました、新奨学生皆さんはかなり緊張をした趣で会場に入り、世話クラブカウンセラー様と初対面を致しました。オリエンテーションの講師は入井委員長が担当で、米山記念奨学生の「義務」と「心構え」についてお話を致しました、2023-24学年度新米山記念奨学生はかなり優秀な学生が多いように思います、大半の学生は日本語検定1、通称「N1（エヌワン）」を取得されていました、これは素晴らしい事だと思います。

最後は歓迎会を行い新米山記念奨学生と新カウンセラー様から自己紹介とロータリーに対する期待、そして将来の夢などの2分間スピーチを行い終了致しました。マレーシアの学生はラマダンの期間中なので18時までは食事ができないとの事、また豚肉関係が禁止なので18時以降に特別なお弁当を用意し召し上がっていただきましたが、大変喜んで頂きました。

米山記念奨学事業は優秀な学生に対し応援をする事業で御座います、どうかご理解を頂き一人でも多く米山記念奨学生を育てたいと思いますのでご協力をよろしくお願い致します。





# 米山奨学生自己紹介



## ダン フー タック

【出身国】ベトナム、フエ市

【留学先】札幌学院大学 経済経営学部 経営学科

【世話クラブ】恵庭RC

札幌学院大学経済経営学部、経営学科から参りました、ダン フー タックと申します。恵庭ロータリークラブに所属しています。

私の出身はベトナムのフエ市です。ベトナム中部に位置する歴史的な都市であり、世界遺産に登録されていることで有名です。フエ市はベトナムの古都として知られており、多くの宮殿、寺院、墳墓、博物館などがあります。また、フエ市は、ベトナムの伝統的な文化、芸術、音楽が栄える場所でもあります。

私の夢は、日越の貿易促進を目的とした会社を起業することです。ベトナムでは日本ブランドが大変人気であり、ベトナム人にとってはMade in Japanの製品は高品質であると認識されています。私は日本での留学を経て、日本語と英語の力を伸ばしつつ、日本の経営知識を学ぶことで、将来の夢を実現するための準備をしています。

大学卒業後は、日本の貿易会社での就職を希望し、事務の経験を積む予定です。また、法律に関する手続きや資本金の準備、市場ニーズの把握など、日本での企業経営に必要なスキルを身につけるために努力していきます。

私は日本が戦後復興から奇跡的な発展を遂げた歴史に興味を持ち、日本製品のベトナムでの貿易促進を通じて両国間の架け橋になりたいと考えています。日本での経験を活かし、日本とベトナムの両国をつなぐ役割を果たすことを目指して、夢に向かって頑張っていきます。

ロータリー米山奨学生になってまずは私の教育の機会が広がることを期待しています。これにより、自分の興味や将来の夢に向けた学習を深めることができ、自己啓発や専門的スキルの向上を図ることができます。また、留学などの経験を通じて、国際的な視野を持ち、異文化を理解し、グローバルなリーダーシップを身に付けることができることを期待しています。さらに、ロータリー米山奨学金は、社会貢献や地域奉仕の精神を重視していることから、社会的な影響を与えることができるチャンスを得ることができます。私は、この奨学金を活かし、社会的な課題に対して自らの力を発揮し、社会に貢献することを意気込んでいます。



## 陳秋梅（チン シュウメイ）

【出身国】中国 江西省南昌市

【留学先】小樽商科大学大学院 商学研究科

【世話クラブ】小樽南RC

私は2023年度のロータリー米山記念奨学会の小樽南RCの奨学生、陳秋梅と申します。出身は中国の江西省南昌市で、多くの山々と川に囲まれたところです。現在は、小樽商科大学大学院の商学研究科の現代商学専攻の修士2年に在籍しております。このたび、ロータリー米山奨学金の奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。

私は、自分の夢と日本文化への憧れのため、2020年の年末日本へ留学に参りました。中国にいた時、日本語を勉強していましたが、会話能力はまだ未熟でした。そのため、最初は札幌の日本語学校で一年ほど勉強し、その後小樽商科大学に進学してきました。留学生としての生活は、言語や文化の違いに苦労することもありましたが、同時に、多くの貴重な経験を積むことができました。異国で一人暮らしをしていることで、私はますます自立心が育ちました。

普段は、ドラマやアニメなどを見たり、音楽を聞いたりすることが好きです。また、旅行もとても好きです。よく連休を利用して近場に行きます。残念ながら、コロナのため、遠くには行けませんでした。しかし、近頃コロナが収束するとともに、私は色々な場所に行きたい、異なる地方ならではの自然や風土人情を親身に体験しながら、自分の研究に役立てるために観光マーケティングに関する問題を深く考えています。

一方、ロータリー米山記念奨学会のカウンセラー制度のおかげで、色々な「人」と密に接するチャンスが増え、多くのロータリアンとふれ合い、様々な分野の方とコミュニケーションを取り、視野を拡大することができました。また、ロータリーの理念である「奉仕の精神」は、私たちが持つ社会的責任を真剣に考え、行動することを促してくれます。これからは、積極的にクラブの活動に参加し、自分自身を成長させ、地域社会に貢献できると期待しています。

卒業したら、私は日中観光会社に入って、ロータリーの理念を持って、大学院で習得した知識や留学期間の経験を活かして観光客に日々のストレスを解消させて幸せが感じられるような旅を提供したいと考えています。日中観光業の架け橋になって日中友好関係又は国際親善と国際平和のために貢献できるように頑張っていきたいと思っております。



## アニス シャズワニ キステイナ ビンティ ヒシャム

【出身国】マレーシア

【留学先】室蘭工業大学 情報電子工学系専攻

【世話クラブ】室蘭北RC

私は2023年度のロータリー米山記念奨学生のアニスと申します。世話クラブは室蘭北ロータリークラブです。現在、室蘭工業大学で情報電子工学系専攻を学んでいます。どうぞよろしくお願いいたします。

好きなことは色々ありますが、最近特にお菓子を作るのにはまっています。ケーキやクッキーを作り、友達と一緒に食べています。また、運転が好きなので、運転免許を持っていない友達を行きたい場所へ連れて行っています。そのため、室蘭の観光地をたくさん知ることができました。写真を編集するのも好きなので、暇な時に室蘭のマレーシア留学生の活動写真を編集しSNSに投稿しています。インスタグラムのアカウントはmurooranese.tvなので、ぜひ見てみてください！

初めて日本に来たときは、いろいろな期待がありました。日本は世界で最も安全な国のひとつと評価されているので、女性にとっては日本の安全性はとても魅力的です。多くの国では女性であることはとても怖いことであり、特に夜間の一人歩きはとても危険です。しかし、日本では夜間に一人で歩いても安全であるという特権を享受することができます。

また、多くの国では、国民にしか手軽なヘルスケアを提供しないため、その国に住む外国人はヘルスケアを容易に受けることが出来ません。日本では外国人を含むすべての人が国民健康保険に加入できるため、手軽なヘルスケアを受けることができます。さらに、コロナ禍で日本政府は国民だけでなく外国人へも経済的支援をしています。これからも外国人のために色々サポートしていただけますと幸いです。

ロータリーは、平和を推進し、社会に貢献することを目的として設立され、多くの留学生に日本への留学資金を提供しています。私はロータリー米山記念奨学生として、異文化を受け入れる寛容さを人々に提唱していきたいと考えています。日本は日本人をネイティブとする国であるため、多様性はあまりありません。しかし、日本に住む外国人が増えるにつれ、日本の多様性が高まっていくに伴い、日本人は他の文化を学ぶことに寛容になり、文化の違いを尊重すべきだと思います。

「日本に住んでいるにもかかわらず、なぜ自分たちの習慣を続けているのか」といった質問はよくあります。そんな中、私たちの習慣や文化の違いを理解しようととても熱心である周りの人へは感謝しています。今後もお互いの文化の理解を深めるために頑張りましょう！



## ドルジバット ビンデリヤ

【出身国】モンゴル ウランバートル市

【留学先】札幌学院大学 経済学部 経済学科

【世話クラブ】江別西RC

皆様、こんにちは。

私は2023年度のロータリー米山記念奨学生のドルジバットビンデリヤと申します。出身はモンゴルの首都ウランバートル市です。現在は札幌学院大学経済学部経済学科4年に在学しています。そして、今年の4月から江別西ロータリークラブにお世話になっています。

私は小学校一年生の時から日本語の勉強をしていました。幼い頃から日本の文化が好きだったからです。そのため、実際に日本に留学し、高等教育を身につけながら自分の日本についての知識を広げたい、日本人の几帳面で思いやりがある心を学び、もっと自分を成長させたいという意欲が高まり、ちょうど5年前の2018年4月に来日しました。東川町の日本語学校で2年間日本語を学修しました。その後、札幌学院大学の経済学部経済学科のCUPコース情報プログラムに所属しています。そこで、経済学を中心に、現代社会に必要な情報技術を学んでいます。最終的にはAIを活用したオリジナルのアプリを作成することを目標に、AIの仕組みやプログラミングの知識・技術を身につけようと日々勉学に励んでいます。

大学卒業後、日本のIT企業への就職を考えています。大学で身につけた知識を生かし、活躍したいです。日本の企業の一員となり、自分の特徴でもある常に学ぶ姿勢を活かして新しい知識を学び、様々な経験を積み重ね、挑戦をしていきたいです。そうすることによって、自分自身の視野を広げ、さらなる自身の成長をめざしています。また、日本の企業で技術を磨き十分な経験を積んだ後には、他人に教える側になり、人材育成に貢献をしたいとも思っています。これを実現するために、さまざまな知識を吸収し、自分を磨き、もっと優秀な人間になるように頑張っていきたいと思います。

この度、ロータリー米山奨学生として、皆さんと交流できる機会が与えられたことに心から感謝し、嬉しく思っております。今後も何卒よろしくお願ひいたします。



## チュウ コック ダット

【出身国】ベトナム

【留学先】札幌国際大学 観光学部 観光ビジネス学科

【世話クラブ】岩見沢東RC

### 1. 日本に留学した理由

高校を卒業した後、海外で生活してみたい、母国より発展している国の大学で勉強したいと思い始めたのがきっかけでした。当時、日本の経済は世界第2位で、そして、ベトナム人は日本人の勤勉で真面目な姿にとっても憧れているので、日本に留学することを決意し、2017年に来日しました。

### 2. 好きなこと

趣味はサッカーをすることと、料理をすることです。サッカーは小学生の頃からやっていて、怪我をたくさんし、母に何度も怒られましたが、友達とサッカーをすることは1番楽しいです。料理は、日本に来る前にはあまりしたことがありませんが、日本に来てから飲食店のアルバイトを始め、自分で作った料理を食べてもらったお客様から美味しいと言ってもらった時にすごく嬉しいと思い、料理をすることが好きになりました。

### 3. 日本に対する期待

日本でたくさん学び、積んだ経験を活かして、母国の航空業界に貢献できるようになりたいと思います。大学では「ベトナムとつながる航空路線の開拓」という研究を行っています。具体的には、現在、ベトナム人は仕事、留学、旅行のために北海道に多く来ていますが、ベトナムから北海道までの直行便がなく、「移動することが不便」という課題を抱えています。この課題を解決するため、日本の航空会社にヒアリングしながら、在日ベトナム人を対象にアンケート調査をしたり、収集した様々なデータから分析し、対策方法を考えています。そういう活動は実際に日本で行わないと難しいので、大学で専門的な知識をできるだけ身につけ、卒業後も、日本企業で就職し、経験を積み、グローバルな人材で活躍できることを期待しています。

### 4. ロータリーに対する期待

グローバルな人材で活躍するためには、異文化や多様な価値観を理解することが不可欠なので、ロータリー米山奨学生となる際、世話クラブの例会や奉仕活動に積極的に参加し、大学では得られない出会いや交流を通じて、ロータリーの理念、日本の文化を学べるようになればと思います。



## 楊欣霖 (ヨウ キンリン)

【出身国】中国 河南省

【留学先】北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院

【世話クラブ】札幌ライラックRC

Q：好きなこと

A：自分の研究対象である地域文化を演じる舞台作品や没入体験などが、自分をもっとも興味を持っているものです。それ以外なら、スポーツ、特にテニスとランニングが大好きです。また、映画や文学も趣味です。

Q：日本に対する期待

A：自分にとっての異文化の環境である日本においては、自分の人生の枠を超え、可能性を拓いていきたいと思います。人生の可能性は常に何かしらの枠によって制限されると思います。私は、そのような枠を絶えずに超越していくことを、自分の人生の方向性として考えております。枠を超越する方法は大きく2つあると思います。1つは試練に挑み続けることであり、もう1つは積極的に異質な他者と出会って交流することです。日本での留学は、私にとって大きな試練でもあれば、異質な他者と出会う絶好の機会でもあります。

Q：ロータリーに対する期待や意気込み

A：ロータリーでは、世界平和という崇高な目標を持つ有志と知り合い、色々な活動に参加する中で社会奉仕の精神を学んでいきたいと思います。

社会奉仕に大事なものは、アドラー心理学で言うところの「共同体感覚」だと思っています。つまり、「人間は皆、互いを支え合う仲間であるという感覚」を持ってはじめて、人は社会に奉仕する意欲が湧いてくると考えられます。それは温かい世の中の実現のためには、必須だと思っています。生存競争の論理が信じられている社会はどれだけ冷たいものでしょう。もし皆が、いや、一人でも多くの人が、生存競争の論理を信じるのではなく、共同体感覚をもって社会奉仕の活動を始めたら、間違いなく温かい世の中が現れてくると思います。それは決して簡単なことではないし、その前提として、自分と異質な他者を、嫌って排除するのではなく、理解して受け入れる心が必要でしょう。

他者を受け入れる心を一般大衆に持ってもらうきっかけを、観光の場で提供するというのは、長年観光学を学んできた自分の志です。その意味で、社会に奉仕し、世界平和を推進することを使命とするロータリーは、まさに自分に相応しい組織ではないかと思っています。これからの一年半の間、何卒宜しくお願いします。



## 代書芸（ダイ ショゲイ）

【出身国】中国 四川省 成都

【留学先】北洋大学 国際文化学部

【世話クラブ】札幌北RC

ロータリーの皆様、こんにちは。

いつもご支援頂き、誠にありがとうございます。私は2022年度—2024年度の奨学生代書芸（ダイ ショゲイ）と申します。所属している世話クラブは札幌北ロータリークラブです。中国・四川省の成都から参りまじや。今年は日本6年目です。北洋大学国際文化学部の4年に在学しています。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

これから私の好きなことについて紹介いたします。

私は食べることが好きで、好きな料理も数え切れないほどたくさんあります。外食より家で自炊する方が好きなので、日本に来てから大体8割は自炊しています。そのほとんどが、地元の料理である四川料理です。



【自炊の四川料理】

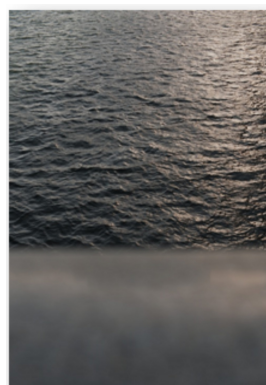
そのほか、写真を撮るのも好きです。暇なときは、大体散歩や旅行しています。散歩する時にはいつも相棒のカメラと一緒にです。

ロータリークラブは地域の人々の生活を改善したいという情熱を持って社会に役に立つ、貢献する活動に力を注いでいます。またロータリー米山記念奨学学会は学業に熱意を持ち、異文化理解、コミュニケーション能力への意欲や能力に優れ、将来母国と日本の架け橋となるような留学生を支援することを目的としています。

光陰矢の如し私が札幌北ロータリークラブに奨学生として入ってもう一年が経ちました。この一年間は間違いなく、私の今までの留学生生活の中で最も有意義な一年でした。クラブの毎月の例会を通して、年齢や職業などに関わらず、クラブの皆様と交流ができて、色々な学校で学べない知識を勉強できて本当に素晴らしいです。昔の私はスピーチの時に緊張し過ぎて原稿を忘れてしまった経験がたくさんありましたが、この一年間、たくさんスピーチのチャンスをいただき、自分が考えていることをうまく表現できるようになりました。本当にありがとうございました。

また、私は今、大学院への進学を準備しています。大学院で日本語教育学の異文化コミュニケーションについて研究したいです。私の研究を通して、異なる国と異なる文化がもたらした一連の問題を改善し、世界文化交流の架け橋になることを望んでいます。卒業した後、日本で就職しても、母国に帰ってもきっと人にアドバイスすることができる人になると思います。

日本に来てこの五年間で学んだことやロータリーで学んだ様々な知識は本当に私の人生に大きな影響を与えています。深く感謝いたします。





## 王 馨晨 (オウ シンチェン)

【出身国】台湾

【留学先】酪農学園大学獣医学部

【世話クラブ】江別RC

台湾から来ました王馨晨と申します。江別ロータリークラブに所属しております。現在、酪農学園大学獣医学部の6年生です。伴侶動物外科学ユニット研究室に所属しております。毎日大学付属動物病院での診療、手術に携わります。座学で勉強した知識を活用する場であり、非常に勉強になります。毎日忙しくて疲れましたが、病気を患った犬と猫たちを治療して元気が戻るのはとてもやり甲斐を感じております。

好きなことはトレーニングと絵描きです。診療や手術にも非常に体力を使うので、トレーニングによって体力を鍛えました。また、トレーニングは体力をつけることができる以外に、心を落ち着かせる効果も感じます。勉強に疲れた時に、集中力を回復させるためにトレーニングをよくしています。また、獣医学の勉強ノートを作る時によく絵描きで勉強していました。絵描きが趣味になり、今は研究室のロゴデザインをしたりすることもあります。

日本で獣医療を学んだ上で、日本獣医療のすごさを深く理解しました。日本は一次動物病院と二次動物病院があります。さらに、内科、外科、歯科や皮膚科などの専門科があります。台湾の獣医療は専門科がほとんどなく、一般動物病院しかないですが、高度な獣医療を目指すために専門科は必要だと考えられます。また、日本は専門医や色々な分野の獣医学会があります。台湾は日本と比べて、とても少ないです。各地の知識や研究の交流も少なく、獣医療の発展がなかなか進みにくい原因と考えられます。台湾の獣医療は日本に学ぶべきだと思います。将来、卒業後は日本で経験を積み重ねて、専門医の資格を獲得してから帰国したいと思っています。日本の専門科、専門医制度を台湾の獣医療に貢献して、研究分野にも活性化させたいと思っています。

ロータリーは非常に多くの人材が集まっている場であり、日本の人材と交流することによってたくさんの方が学べると期待しています。また、ロータリーは日本の人材以外にも優秀な外国人と交流できると思います。世界各国の人々と交流することで、さらに視野を広げた上で、自分が母国と世界の架け橋になり、母国の進歩に貢献したいと思っています。





## 段開峰（ダン カイホウ）

【出身国】中国

【留学先】北海道大学北海道北方圏環境政策工学専攻

【世話クラブ】札幌東RC

私は段開峰と申します。世話クラブは札幌東ロータリークラブですが、北海道大学北海道北方圏環境政策工学専攻の博士2年です。現在は、自動運転バスの専用道路を導入することに関する研究を進めています。

私は旅行が大好きで、旅先でたくさんの思い出を作ることが好きです。旅行すると、新しい文化や風景を見ることができ、常に新しい発見があります。また、旅先で出会った人々との交流も貴重な経験です。旅行に行くと、日常生活の中では体験できないことがたくさんあり、自分自身を成長させることができますと感じます。旅行中には、風景や人々を写真に収めることも大好きです。写真を撮ることで、自分が見た風景や出会った人々を思い出すことができます。また、撮影した写真を家族や友人と共有することで、旅行の思い出を共有することもできます。

私は日本に対しても大きな期待を抱いています。日本は、世界中から多くの人々が訪れる観光地であり、自然や文化、食べ物など多くの魅力を持っています。伝統的な文化や美しい景色に出会い、新たな人々との出会い、そして食文化に触れることです。私は日本について多くのことを学び、理解を深めたいと思っており、それは私の将来の仕事にも役立つことでしょう。

今回ロータリーに参加する理由は、私のこれまでの人生に大きな影響を与えてくれた「奉仕の精神」を学び、実践するためです。私は、ロータリーのグローバルなネットワークとその行動原理に共感しています。私は、ロータリーの一員として、自分自身が成長し、地域社会に貢献することを目指しています。ロータリーに期待することは、様々な文化に触れ、異なる考え方に会い、国際交流を通じて多くのことを学ぶことです。また、ロータリーに参加することで、自分自身のスキルアップやリーダーシップ力の向上、そして奉仕活動を通じて社会貢献をすることができると思っています。

このプログラムを通じて、多くの人々と出会い、新しい友人や仲間を作り、日本の文化や言語を学び、私自身の成長と地域社会への貢献を目指したいと思っています。このプログラムに参加することで、私の将来の目標を達成するために必要なスキルや経験を得られると信じています。

今後も、ロータリーの活動に参加し、社会貢献活動に積極的に取り組んでいきたいと思っています。また、ロータリーを通じて、世界中の人々と交流し、国際的な視野を広げたいと考えています。



## 田影（デン エイ）

【出身国】中国 内モンゴル

【留学先】酪農学園大学 環境リモートセンシング専攻

【世話クラブ】岩見沢RC

皆さん、こんにちは。

田影（デンエイ）と申します。米山奨学生として岩見沢ロータリークラブにお世話になっております。私は酪農学園大学の環境リモートセンシング専攻の博士三年生でございます。出身は中国の少数民族の内モンゴルでございます。2016年4月から日本に来て、酪農学園大学の研究生として勉強を始めました。今はモンゴルの地表面の季節変動と砂漠化について研究しています。中国の大学の四年間で環境科学を勉強して、卒業してから日本文化の体験と自分の専攻分野を深く理解するために日本に留学しています。

私の趣味は旅行と美味しいもの食べることです。そして、日本文化を体験するために、学校が休みの間に友達とよく旅行に行って、当地の食べ物を食べて、いっぱい写真撮りました。私の好きな料理はお寿司、焼き肉、ラーメン、牛丼です。

日本に来たばかりの時に、アルバイトをしながら日本語を勉強しました。アルバイト期間でたくさん日本人とコミュニケーションを取る機会があって、交流能力もどんどん上がって、ゼミ研究室でも仲がいい友達ができました。学習の面では日本の最先端の科学技術など、今まで知らなかった新しい知識を得ることで視野を広げることができました。将来多国籍企業で働くために、多様な人種的バックグラウンドを持つ人と一緒に学べる環境で切磋琢磨したいです。

昨年の4月から米山奨学生になって、この一年間の奨学生生活を通して、大学と異なる社会経験豊富な皆さんと交流をすることによって生活の意味を改めて理解し、視野を拡大することができて、皆さんから社会奉仕精神を学びました。将来は社会に役に立つ人になって、皆さんの社会奉仕精神を伝承していきたいと思います。また、米山奨学生の使命と役割が改めて理解し、将来の努力する方向性も明確になりました。これは今までの最も成長した点だと思います。これから母国と日本の架け橋になるだけでなく、将来的に社会に貢献し、世界平和のために寄与できる人間になることが期待されていることがわかりました。日本のロータリアンの皆さんに、感謝とともにお伝えしたいのは、私たち留学生にとって、経済的な支援はもちろんですが、それ以上に心に寄り添ってくれるような、精神的な支援がとても大切だということです。

最後に、日本での学業修了後、日本の企業に就職するつもりです。優秀な環境研究者になりたいです。将来、自分の力で日本と中国の国際関係に貢献して、そして、文化と世界的な環境発展に頑張りたいと思っています。米山記念奨学金のおかげで、学校の研究と生活を両立することができ、心から感謝を申し上げます。



## NUR EMIRA IRDINA BINTI NORAZMI

(ヌル エミラ イルディナ ビンティ ノラズミ)

【出身国】マレーシア

【留学先】札幌国際大学・観光学部 国際観光学科

【世話クラブ】新札幌RC

### 好きなこと

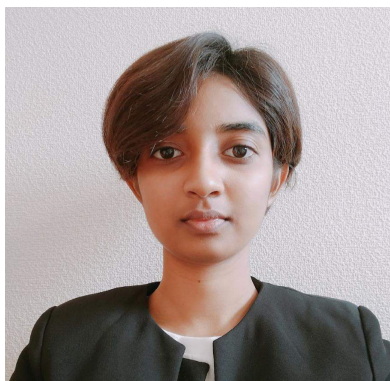
私は好奇心旺盛な性格のためか、趣味の領域までいかないような好きな事がたくさんあります。Lo-fi (ローファイ) をかけながらタスクやイラストを描くこと、温泉やスーパー銭湯に行くこと、カフェ巡り、かぎ針編み、いい香りのハンドクリームを塗ること、カフェで自分の時間を過ごすこと、ウィンドウショッピングをすることです。

### 日本に対する期待

私は「やさしい日本語」に期待があります。それは、1995年の阪神・淡路大震災のとき、日本語も英語も分からず、生きるために必要な情報を得られずに孤立してしまった在日外国人が多くいたからです。日本語は、他の言語に比べて言葉の数も多く、ひらがなとカタカナと漢字を混在して使うため、とても難しい言語だと言われています。特に、漢字圏以外の地域の外国人にとっては、音読みと訓読みが存在する日本の漢字は、とても難しいと感じます。そんな中で、意思伝達をスムーズに行うことができるのが「やさしい日本語」です。「誰にでもわかりやすい」が最大のメリットです。難しい表現がなくなることで、緊急時や難しい手続きに関する案内も多くの人へスピーディーに情報提供ができます。国語が多種多様な中、インバウンドや日本で生活する外国人は、英語よりも日本語での情報発信を望んでいると思います。これからの多言語文化社会における「やさしい日本語」は、外国人とのコミュニケーション問題を解決することもできます。「やさしい日本語」が外国人にとって分かりやすいだけでなく、小さい子供や高齢者にも分かりやすい表示方法です。在住外国人を含め様々な人が共に生きる多文化共生社会の推進のため、こういった心配りがあるととても助かります。伝える相手をもつ文化や環境にも配慮しながら、やさしい気持ちで「やさしい日本語」を活用していきたいです。

### ロータリーに対する期待や意気込み

私の夢は母国マレーシアと日本の懸け橋になることです。4年間日本に留学しに来たからには、日本のことをもっと深く知りたくて、日本でいい経験をし、心残りがないように沢山思い出を作りたいです。ロータリアンとして、ロータリーを通して、日本の文化に触れ、その生活の中から社会に役立って、リーダーシップ、開放的な心、冒険精神、好奇心、カリスマ性など奉仕の精神も学んでいきたいです。自分が人間的に成長していける舞台がロータリーだと確信しています。



## クシニ・ハトゥルシンゲ

【出身国】スリランカ

【留学先】はこだて未来大学

【世話クラブ】函館RC

私はクシニ・ハトゥルシンゲと申します。函館ロータリークラブに所属しています。はこだて未来大学の修士2年のスリランカからの留学生です。私は知能情報科学分野のシステム情報科学を専攻しています。

私の研究は、SNS投稿に基づく感情的なライフログシステムの構築に関するものです。主な研究分野は自然言語処理と機械学習です。

去年函館に来て、初めての一人暮らしでした。そのため、家事のほとんどを学ばなければなりませんでした。さまざまなビデオやブログを見て、家を整理し、料理の仕方を学びました。当初、それは複雑で失敗だらけだったけど、だんだん上手になってきて面白いです。

函館は自然と美しい景色にあふれた街です。山もある海もある函館の散歩がとても楽しかったです。私は四季のない国からまいりましたので、四季によって環境と人生生活の移り変わりを見るのは面白いです。

新型コロナウイルス感染症でほとんどの時間を家で過ごした後、ようやく友達とリアルタイムで会うことができました。周りの人はみんな優しくてフレンドリーだったので、いろいろな話をしたり、素敵な場所に行ったり、日本食を食べたりするのが楽しかったです。

疲れて気分転換が必要なときは、映画館に行って日本の映画を見ます。日本の映画はとても感情的で心地よく、最後には必ずメッセージを残してくれます。私は日本の映画を楽しんでおり、それは私の日本語を改善するのにも役立ちます。

卒業後は日本で働く予定です。私は研究と就職活動で忙しい。私は日本の文化と人々が好きです。私は日本中を旅して、日本の文化についてもっと学びたいです。一番学びたいのは生け花についてです。

ロータリークラブは、人々を大いに助ける世界中でよく知られているクラブです。米山記念奨学金は、私のような留学生が生活費を気にせず勉強に集中するのに非常に役立ち、日本文化を探求する時間が増えました。

毎週のミーティングや他のイベントに参加することは、素晴らしい機会と経験です。ですから、来年の3月まで、日本についてもっと知識を深め、思い出を集め、さらに学ぶことを喜んで待っています。



## 羅 炫禹 (ナ ヒョヌ)

【出身国】韓国 富川

【留学先】北海道大学 機械宇宙工学専攻

【世話クラブ】札幌手稲RC

こんにちは。北海道大学修士2年の羅炫禹（ナヒョヌ）と申します。出身は韓国の富川（プチョン）です。現在札幌手稲ロータリークラブでお世話になっております。専攻は機械宇宙工学ですがその中でも基礎的な研究をしており、主に「分子動力学シミュレーション」をテーマにしています。

私は子供のころから手際が良く、モノを分解したり組み立てたりすることが好きでした。自然に学問としては機械工学が、そして趣味としては日本のプラモデルを好きな学生になりました。そのお陰で日本に留学するきっかけともなりました。手際がいいことから手を使うことは他にも好きなことが沢山あります。ボウリング、パソコンの組み立て、PCゲームなど数えきれないことに手を出しています。ボウリングは一時期はまり過ぎてスタッフの無料ゲームをするためにアルバイトをボウリング場でしたこともありました。パソコン好きという特徴は研究でも活かして、パソコンを使ったシミュレーションの研究を行っております。

日本に対して抱いている期待はすでにいくつか経験していることですが、いろんな趣味を楽しむことができるという点です。勉強と研究をするにあたって何より大事なことはちゃんと休むことであると先輩の研究者からお伺いしたことがあります。勉強も頑張って、趣味も頑張るといった仕事と私生活の両立がうまくできるのが今までの経験であり今後日本で生活を続ける上での何よりの期待です。

ロータリー米山奨学生になってから新たな日々を過ごしております。金銭的支援により、研究と趣味などに費やせる時間が増えたのはもちろん、日本で長い時間過ごしたにも関わらず接することのできなかつた新しい一面に会っています。学校の先生やアルバイトの先輩が日本社会で経験することのできた大人の全てでしたが、社会の各所で活躍されているロータリアンの方々と話ができたり、例会に参加し新たなコミュニティーのアイデンティティーや文化を感じることができたりする機会となっております。

これからもよろしくお願いします。



## クリステナ シュミット タニシヤ

【出身国】ドイツ

【留学先】北海道大学

【世話クラブ】滝川RC

滝川ロータリークラブの米山奨学生であるクリステナ・シュミットと申します。現在、北海道大学で4年目を迎え、政治経済、社会、歴史、文化の観点から日本学を学び、特に日本の音楽産業における法律とデジタル化の関心に焦点をあてています。

日本の音楽業界を支配する法律や規制の枠組みが、その膨大な音楽カタログのデジタル化と世界的なデジタル配信という点で、業界の成長と発展をどのように妨げているのかに興味があります。私の希望は、音楽配信などのデジタル音楽形態に対応するために、現行の法律を近代化し、世界中の聴衆が日本の音楽に合法的かつバリアフリーでアクセスできるようにし、日本の聴衆が海外の音楽をより多く楽しむようにする方法を明らかにすることです。

このような興味は、クラシック音楽家と音楽会社の起業家である家族的背景と、私自身が様々な種類の音に対する愛と感謝の気持ちから生まれたものです。竹内マリヤやワンオクロックなどのアーティストを友人とカラオケで朝方まで歌うこともあり、日本に来てからの3年半で、日本文化の中で最も人気のある社会的娯楽のひとつに、私のこの部分の快適な住処を見つけました。また、クラシック音楽のコンサートに行くのも大好きです。音楽は、理解、対話、異文化交流を促進する力を持っているので、多様な音楽体験を通じて、ロータリーのメンバーと絆を深める楽しい機会を作りたいです。

健康増進にも非常に情熱を持っています。

日本との最初の出会いは音楽でしたが、大の料理好きだった私は、海外で味わえる日本料理の味や食材の種類の多さにも即座に惹かれるようになりました。岩見沢の農場で働きながら、日本の食材や調理法を試し、学び、自分のものにする日々を送っています。そして、ボクシングやサイクリング、ジムでのウェイトトレーニングを楽しんでおり、同級生の栄養やフィットネスの指導をすることも大好きです。また、地元札幌や日本のボディビル界とも交流し、互いに学び合い、その成果を9月に開催されるボディビル大会に出場したいと願っています。旅行も大好きで、日本の美しい風景や夜景、温泉や森林浴など、日本ならではのリラクゼーションを体験し続けたいです。

多くの料理や活動的な体験をし、ロータリーや地域の人々と、幸せで長生きする方法について意見を交換できればと思います。

日本人が外国からの影響に耳を、胃を、そして心を開き、より多くの外国人が日本のために同じことをしてくれることが、私の日本に対する究極の願いです。

ロータリーの一員となる機会に感謝し、地域社会、そして世界各地に良い影響を残すために協力し合えることを楽しみにしています。



## 新入会員セミナー開催

国際ロータリー第2510地区

地区代表幹事

河口 義憲

(札幌西RC)

4月22、23日の2日間にわたり、由仁町文化会館で始まり、夕方からは温泉宿ユニの湯に場所を変え、石丸ガバナー年度の新入会員セミナーが行われました。

第2510地区の新人会員からは29名、実行委員側は12名で、計41名が由仁町に集まり、濃厚な時間を過ごしました。このセミナーは、入会3年未満の会員に、例会中心の通常のロータリーから一歩進んでロータリーの可能性を見つめ、会員同士のふれあいを通し、今後のロータリー生活を楽しくしてもらう一助になることを期待するものです。

過去3年間の新型コロナの影響もあり、入会歴3年を超えている方も2名、女性参加者2名、年齢も34歳から70歳までの幅広い年齢層の会員でした。講師陣は石丸ガバナーをはじめ嵯峨地区研修リーダー（PG）、小山PG、福井PG、松浦GE、玉井GNDが揃いました。

実行委員として由仁RCから大坂直人、岩見沢RCから西方洋昭、齋藤聡、栗山RCから松下早苗の各役員と札幌西RCより河口義憲、下村卓也の実行委員が参加しました。22日は講師陣による、共通基盤となるロータリーの歴史のあれこれから始まり、石丸ガバナーから地区の現状とロータリーへの想いが話されました。

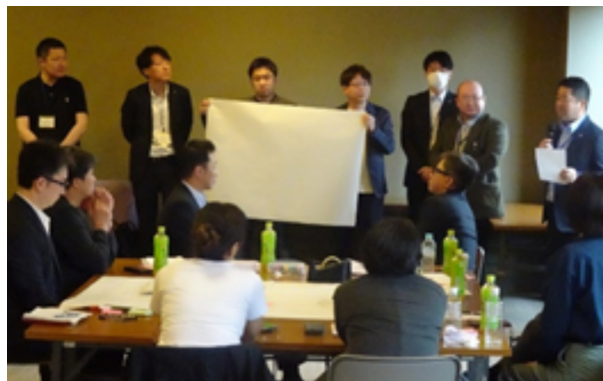


その後参加者は、ほぼ年齢別の4つのグループに分かれ、自己紹介後、グループ内で「自分のクラブでやってみたい活動」をテーマに話し合いがスタートしました。



議論は長丁場で、夕方からはユニの湯に場所を変えましたが、ここはHOKKAIDO LOVEが有効！入浴後、会食を挟んで夜遅くまで翌日の発表のため、というより純粹に酒を楽しみ？会は続きました。

翌日は8時から議論再開で、最後はグループごとの発表会となりました。初日の全くお互いが知らない間柄から、議論が続くにつれ関係が深まり、発表時には互いにプロジェクトチームメンバーと認め合い、変わってゆく姿が、今後のロータリーライフの原動力になってゆく将来を彷彿とさせました。



ほぼ年齢別の4グループですが、2日間の討論をまとめ、最後に発表の際には、世代間の特徴が見事に出ていました。お互いの意見を尊重しあい、議論を戦わせ、まとまらなくても前へ進む若い世代と、共通項を見出しまとめてゆこう、あるいはその方策を具体的に考えてゆこうとする熟年世代とのギャップが対照的でした。

その多様性が大切な事とも再確認し、最後に研修カウンセラーから、2日間のセミナーの感想がありました。どの講評も好意に満ちたもので、今後のロータリアンへの期待、想いがみなぎっていました。集合写真を取る前に、石丸ガバナーからひとり一人にセミナー修了証を手渡されたその顔には、銘々に達成感がみなぎっていました。実質2日足らずのセミナーでしたが皆様お疲れ様でした。参加されました皆様の、今後のロータリーライフが充実されることを祈念しております。お昼には解散となりました。





## 交換留学生より

### 「ロータリー青少年交換と他者尊重の態度」

2015-16年度 交換留学生

荒 幹彦

私にとってロータリー青少年交換（以下、青少年交換）は、私自身の多様な文化・人々への態度の根幹を作ってくれた。つまり、自分とは異なる他者を、その人の視点から理解し、さらにその価値観を自分のものにしようとする姿勢だ。青少年交換以降、旅行や留学、就業で15か国前後の国を訪れたり、計3年ほど海外で暮らしたりしたが、今でもその経験は特有かつ特別であり続けている。その理由は、青少年交換にはたった一人で、そして15-18歳という年齢で参加することにあると思う。

青少年交換に一人で参加することは、日本の親や友人と離れて一人で暮らすことだけを意味しない。派遣先のスウェーデン高校では自分が唯一の日本人だった。私はこのような環境では、自分がスウェーデンの言語や文化を学ぶ以外友人を作る術はないと思った。この自分が今まで知らなかった習慣や価値観を理解して自分のものにしようとする態度は、他者理解に不可欠なものだと考えるが、これは青少年交換以外の経験では十分に得られないと思う。なぜなら、保護者や他の日本人がいたり、他にもたくさん留学生がいてそのコミュニティに属したりしていれば、そこがComfort Zone（自分にとって居心地の良い環境）になってしまうからだ。その意味でこの態度は、私が後に経験した大学での海外留学・就業では得ることができないものだと思う。

また、高校生という若さで青少年交換に参加したことも先述の態度形成にとって重要だった。なぜなら、この年齢の私はある側面で先入観が今よりもなかったからだ。当時よりも社会の色々なことを学んだ今、良くないと分かっていることでも意識的または無意識的に人々をその社会的属性で判断してしまっている自分がいることを否定できない。当時は、様々な人とより人間的な関わりができたと思う。そのような年齢だったからこそ、私は相手の立場を自己内在化しようとするのができたのだと思う。

現在も、国外の人に限らず、人と関わる時にはできるだけ当時の態度を思い出すようにしている。なぜなら、一人一人の他者の価値観を理解しようとする態度が、真の人間尊重だと思うし、究極的には平和の基盤をなすものだと考えるからだ。

# 「フィンランドの思い出」

坂口 知生幸

2015~2016年(高校1年)にフィンランドに留学していました坂口知生幸です。

好きなモノに囲まれ、人との出会いに恵まれ、好きな国の文化や言語に触れ、視野を広げてくれ、新しい事への挑戦とそれを支え応援してくれた方への感謝の1年でした。私がフィンランドにいつか行ってみたい！から留学したいに変わったのは中学2年生の時。将来フィンランドに行ってみたく話をしていると、それを聞いてくれた方がロータリークラブの方で留学したらいいと勧めてもらい実現出来ました。

フィンランドはフィンランド語が使われています。簡単な単語や文法は覚えて行ったものの聞き取れる訳もなく、初めフィンランド人の多くは英語で話しかけてくれましたが、自分の英語の出来なさを改めて実感。そこからは他の留学生達が楽しそうに英語で会話している中、私はフィンランド語で突き通そうとシフトチェンジしました。母国語を話してくれるのは嬉しいらしく、そこからは周りが嬉しそうにフィンランド語で話してくれるようになりました。私が理解できるまで簡単な単語を並べて話してくれたり、私のインチキなフィンランド語を一生懸命聞いてくれる家族や友達、先生が居てくれたから間違えても伝えよう！と安心して話せる様になりました。

そして半年が過ぎ3つ目のホストファミリーをロータリーの方が探してくれている時、2つ目のホストファミリーが「留学の最後まで家にいていいよ」と言ってくれました。3人兄弟の5人家族で大変な時期の中、家族全員が受け入れてくれた事がたまたま嬉しかったです。家族のように輪の中に入れてくれたホストファミリーの温かさに今でも心温められます。語学の習得ももちろんですが、それ以上の経験や人との出会いがこの留学での宝物です。

留学という1つの目標を終えた今も、今後もやりたいことは挑戦し続けたいと思っています。そして留学に関わってくださった方々に感謝の気持ちを忘れずこれからもい続けたいと思います。これから留学される方には、日本を離れて日本の凄いや有難みも感じながら、それぞれの留学先で充実した生活ができる事を祈っています！

ロータリークラブの皆さん本当にありがとうございました。



## 「札幌の思い出」

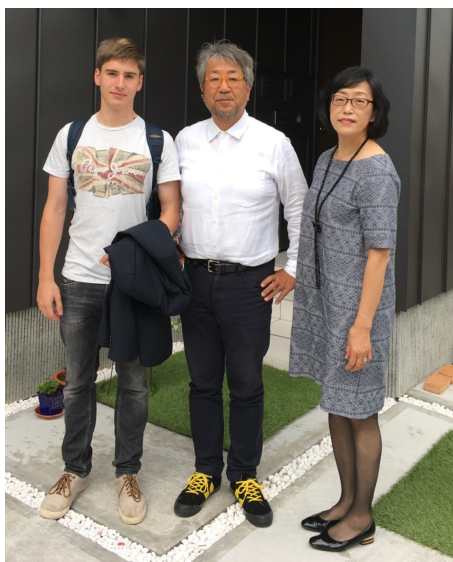
皆さんこんにちは。Julius Stryckと申します。2016-2017ロータリー交換留学生として札幌に住んでいました。ホームクラブはドイツの1850地区のWesterstede Rotary Clubでした。ホストクラブは札幌大通公園ロータリークラブでした。

留学から帰ってきてもう5年ぐらいいが経ちました。今振り返るとあの時のいい思い出がたくさん残っています。その大きな理由はホストファミリーでした。私は一年間の大部分、小笠原肇さんと悦子さんの家に住んでいました。ホストファミリーはとてもやさしく、自分の息子みたいに扱ってもらって私は幸せでした。たいてい朝晩一緒にご飯を食べたり話をしたりしました。そしてホストファミリーが私をたまに温泉やドライブや旅などに誘ってくれました。10代に海外留学をした場合は安全な所があるのは非常に重要だと思いますので、私にとってそういうホストファミリーであってよかったです。ほかの留学生も私の経験と似た経験をすると思います。

学校の生活もかなり良かったです。私は静修高校に通っていました。日本に来る前にあまり日本語を話せなかったので初めは簡単な会話をするのも難しかったです。それでも静修高校の生徒たちは私と話してくれたり、遊んでくれたり日本語を教えてくれたりしました。静修高校にはユニバーサル科があって、そこに通っている生徒たちはとくに海外に興味があったのもよかったと思います。週3回ぐらい学校の先生から日本語授業をうけたのも良かったと思います。普通の授業があまりわからなくてちょっと辛い時もありましたが、普段は喜んで学校に行って授業をうけて美味しい弁当を食べて部活をしてうちに帰りました。

ほかの留学生とのつながりも留学の大事なところだと私は思います。やはり留学生はいろんな国々から日本へ来て同じ経験をたくさんして、お互いの気持ちがちょっとわかるようになります。それでいい仲間になれると思います。私の場合もそうでした。特にロータリーが留学生のために計画した旅はなまらよかったです。登別温泉などで留学生やロータリアンやRotexの人たちと一緒に楽しい時間が過ごせました。2017年からのロータリー交換留学プログラムはどうだったかわかりませんが、そういうイベントを将来にも開催してくれると留学生は絶対に喜ぶと思います。

私の留学についての考えや思い出は私の下手な日本語でまとめるのは難しいですが、つまり、私は札幌に留学をしてとてもよかったです。将来にもたくさんの留学生が北海道に来てほしいです。きっといい経験になりますので。そして日本人もたくさん海外に留学をしたらいいと思います。私のホーム地区1850地区は毎年たくさんの留学生を受け入れるのでドイツにも来てくださいね。



## 2023年メルボルン国際大会のご案内（第一報）



地区RI国際大会推進委員会

委員長

福井 敬悟

(札幌手稲RC・PG)

2023年国際大会は、5月27日（土）～31日（水）にかけて、オーストラリア・メルボルンにて開催されます。メルボルンはオーストラリア南東部の海岸沿いにあるビクトリア州の州都で、「エコノミスト」誌の「世界で最も暮らしやすい都市」で1位を獲得しています。

第一報として、メルボルン・シドニー7日間のコースをご用意致しましたのでご案内いたします。歴史的な建物や文化が残る自然豊かな落ち着いた都市・メルボルンと、近代的な大都市・シドニーを楽しめるコースとなっています。是非、ご家族お誘いあわせのうえご参加いただき、コロナ禍で旅行が制限され会えなかった友と、そしてまだ会ったことのない世界のロータリアンと、ロータリーの絆を深めましょう。多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。

- ◎ 設定人数 : 20名様
- ◎ 申込締切 : 2023年1月31日（火）
- ◎ 旅行費用 : お一人様 400,000円

### 【 利用予定航空会社 】

国際線及びオーストラリア国内 : カンタス航空      日本国内線 : 日本航空

### 【 利用予定ホテル 】

メルボルン : モーベンピック ホテル メルボルン オン スペンサー（予定）  
メルボルン駅 正面で国際大会会場まで徒歩15分の位置にあるデラックスホテル  
シドニー : ソフィテル シドニー ウェントワース（予定）  
シドニーの中心街にあり象徴的な建造物として知られているデラックスホテル

### < 旅行費用に含まれるもの >

- ・航空料金 カンタス航空、日本航空のエコノミークラス ※ 2022年9月現在、燃油費用が含まれています。
- ・宿泊料金 メルボルン 3泊 シドニー 1泊 朝食付き ※ 2名1室利用
- ・日程表の送迎費用 空港とホテルの送迎及び、団体行動中は係員がご案内いたします。

### < 旅行費用に含まれないもの >

- ・空港利用料、その他諸税 約20,000円（2022年9月現在のものの変動があります）
- ・任意 / 国際大会登録料（各自）、北海道ナイト参加費（各自）、  
オーストラリアETAS電子入国査証（入国必要条件）OP（オプションツアー：食事、観光）、  
海外旅行保険、一人部屋希望者追加費用 100,000円

### 【 ご案内事項 】

- ・参加人数を20名様で旅行費用を算出させて頂きましたが、人数に満たない場合は変更になる場合がございます。また、お一人部屋、ベッドタイプのご希望は施設の事情によりご希望に添えない場合もございますので予めご了承ください。
- ・なお、御取消料は国際大会による現地施設の都合により、お申込み後からは旅行費用の10%がかかります。その後、御取消料はお取消し日により取消料率が変わります。（国際大会期間の為、規定が厳しいことをご理解願います）

【 お申込み・お問合せ 】 : (株)産経海外旅行 札幌市中央区北1条西7丁目 タキモトビル4階  
電話 : 011-271-5388 F A X 011-271-5621 担当 : 斉藤・矢田目

## メルボルン国際大会 メルボルン・シドニー

旅行期間：2023年5月25日（木）～5月31日（水） 7日間

設定人数：20名様

	日付		発着地	時間	交通機関	旅行行程	朝食	昼食	夕食
1	5月25日	木	新千歳空港 発 羽田空港 着 羽田空港 発	17:00 18:40 21:30	JL518 QF80	日本航空にて羽田空港へ カンタス航空にてメルボルンへ 機内泊	-	-	機内
2	5月26日	金	メルボルン 着	09:00	送迎車	入国手続き後、送迎車でホテルへ ・メルボルン市内観光（OP） メルボルン泊	機内	-	-
3	5月27日	土				終日：自由行動 ・メルボルン国際会議場 ・国際大会受付 ・友愛の家 グランドオープン メルボルン泊	○	-	-
4	5月28日	日				終日：自由行動 ・開会 本会議 ・2510地区 北海道ナイト ※ ザ・ホテルウインザー メルボルン泊	○	-	-
5	5月29日	月	メルボルン 発 シドニー 着	13:00 14:25	送迎車 QF444 送迎車	ホテルより空港へ カンタス航空にてシドニーへ 到着後、空港よりホテルへ シドニー泊	○	-	-
6	5月30日	火	シドニー 発	20:55	送迎車 QF25	終日：自由行動 ・シドニー市内観光（OP） ホテルより空港へ カンタス航空にて羽田空港へ 機内泊	○	-	機内
7	5月31日	水	羽田空港 着 羽田空港 発 新千歳空港 着	06:00 09:00 10:35	JL507	日本航空にて千歳空港へ	機内	-	-

※ 2022年9月現在のスケジュールに基づき作成しております。大会事務局、航空会社、利用施設の都合により変更になる場合もありますので予めご了承ください。

## ガバナー四方山話

### 第11回 その他の国の思い出

これまでに行った国でこれまで四方山話に出てこなかった国として、モンゴル、カナダ、韓国、オーストラリア、ベトナムなど20ヶ国くらいがあります。1997年に訪問したモンゴルは、共産圏から脱してまだ5年で、共産国のムードが残り、税務署が警察署内にあるという状況でした。人口も230万人しか居らず、道路も非常に悪くでこぼこで、道路際のマンホールには、住む所の無い子供たちが出入りしていました。

ウランバートルから1時間も車で走ると雄大な草原で、ゲルと呼ばれる移動用の大型テントの住居がポツポツある他は大自然そのものでした。馬の乳をしぼり、馬乳酒を作るのは指先の柔らかな女の子の仕事で、馬乳酒の入ったポリの容器には多少の藁も浮かんでいました。毎日攪拌して発酵させるのですがコップに一杯ぐいっと飲むと発酵した酸味とわずかなアルコールで胃腸はたちまちのうちにきれいになる感じです。馬乳酒は野菜をほとんどとらないモンゴル人には欠かせないビタミン源です。

その当時の大草原にはタルバガンという全長30cmくらいの動物が結構いて、これを捕まえて石で蒸し焼きにしたものを頂いたのですが、このお肉が実に美味しいのです。肉と言うと羊しかない生活において、このタルバガンはモンゴルの方も大好物ということで最近では、激減しているようです。

あと、ポーズと言う羊の肉で作る小籠包のような食べ物も美味しく懐かしいものです。ただ、作り方によっては少々肉の匂いがきついものもあり、やはり美味しくするには愛情が必要だと思えます。この3月まで札幌西RCでお世話をした米山奨学生はモンゴル出身で、彼女がポーズを作ってくれましたが、とても美味しく素晴らしい物でした。

カナダは、アルバータ州カルガリーに養豚場の見学に関与先の皆さんと行ったときに、モーターに泊ったのですが、庭にバーベキューの設備があったので、皆で街のスーパーマーケットに行き好きなお肉を買ってきて、焼いたのですが、その時購入したアルバータ牛肉は一切脂身が無く色は真っ赤ではなく少し赤みの薄い色のサーロインでした。これを塩コショウだけで炭火でじっくり焼いて食べたのは感激物でした。脂は無いのですが、軟らかくジューシーで幾らでも食べる事が出来そうでした。1ポンド(450g)をあっさり平らげました。それ以来、いくら高級とは言え霜降り肉には手が出なくなりました。

韓国と言えばソウル、ソウルと言えば南大門市場、市場の中の食堂には庶民の食べものがズラリと並んでいます。夕方から出る屋台の中を歩くと「シャッチョさん」の掛け声があちこちから。つられて食べたアナゴの照り焼きはコリコリして美味しかったな。寒くなったらサムゲタンで体を温めるのも良いし、チョゲタンやコムタンも体に嬉しいです。焼き肉が韓国料理だと思われている方には、是非美味しいチャプチェやスープを食べて頂きたいです。どんぐりの粉を使った冷麺も大好きです。

オーストラリアは、タスマニア島が好きです。伊勢エビや牡蠣など海の物が美味しいです。

ベトナムではハノイのレストランで食べた鳩の丸焼きがとても美味しかった記憶があります。また青菜が日本には無いものでさっと炒めただけでとても美味しく感激でした。

## ガバナー補佐自分を語る

### 「私の履歴書」

国際ロータリー第2510地区 第9グループガバナー補佐

濱中 實 (室蘭RC)



私は、昭和24年(1949年)1月に室蘭で生まれました。昭和20年8月が終戦の日ですから、自分の記憶にある4～5歳のころの住まいの近所の景色は木造の長屋で、水道も共同のもので道端に立っていました。道路もデコボコで車もほとんど無く、荷馬車さえも走っていました。自宅の裏には防空壕があり、道路の傍らにはどぶが流れていました。その時から70年の時を振り返りたいと思います。

私は死にそうになったことが2度あります。一度目は中学校2年の時の夏休みに近くの坂道を自転車で乗って下る途中でブレーキがきかず、止めることが出来なくなりT字路に突入しました。幸いにも両側から車が来なくて無事でした。二度目は大学一年生の時に徹夜で麻雀をして眠りもせずそのまま海に遊びに行き泳ぎました。ちょうどお盆の時で、海は荒れていましたが、沖にあるドラム缶4本で組んだ筏がありそこへ泳いでいき、その上で休んでいましたが、大波が来て筏が転覆してしまい、平泳ぎで陸を目指しましたが、大波に足を引っ張られ前に進みません。頭の上を波が何度も乗り越えていきますが、体は止まったままで、海水を何度も飲みもうだめかと思いましたが、最後にクロールに切り替えて息継ぎもせずメチャクチャに腕、足を動かしてようやく陸まで生還しました。

この経験は自分の人生の中であきらめなければ何とかなるという教訓になっています。自宅は室蘭半島の高台の海を見下ろす所にあり、毎日日本製鐵の溶鉱炉のノロカスを港に埋め立てのために海に投棄していたのを覚えています。港を出入りする多くの船を毎日見ている、子供の頃から船の模型を作るのが好きで大人になったら船関係の仕事をしたと思っていました。当時の日本の造船業は世界の最先端を走っていて就職は函館ドックに決めました。

昭和47年に入社し、仕事は設計や現場の工程管理、船主や船級教会(ロイズ等)の検査の立ち合い等があり充実した日々を送りました。建造した船の種類はバルクキャリア(穀物や石炭等のバラ積み貨物船)やV.L.C.C(30万トンのオイルタンカー)、青函フェリーそして最後に海上保安庁の1,000トン型巡視船を作りましたが、造船不況の波に飲み込まれ、人員整理が始まり昭和54年に退社しました。その年の10月に義父の経営する燃料販売会社(株)室蘭菱雄の苫小牧支店に入社しました。昭和59年に室蘭の本社に移動し現在に至ります。

私の父も義父も共に室蘭ロータリークラブに在籍していましたが、私が中学校の頃に父がロータリーに入った時には大変な喜びようで、名誉あるクラブに推薦され感激していたことを今でも鮮明に覚えています。私が入会したのは義父が亡くなり、その代わりにという事で平成15年に入会しました。当時会員は66名で現在は残念ながら31名と半分以下になっています。

例会やゴルフ同好会での先輩とのお付き合いを通して自分も年齢を重ねたら先輩のように格好の良い大人になりたいと思っていましたが、果たして20年経った今、後輩たちにどのように見られているのでしょうか? 20年前に入会したときに在籍していたメンバーもほとんどいなくなり、同世代も数少なく寂しさを感じていましたが、この度の石丸修太郎年度にてガバナー補佐という大役を頂き、地区や、他グループでのメンバーとの交流を通して改めてロータリーの可能性を感じる事が出来ました。残り少ないロータリーライフですが、自分の出来ることを1つずつ積み上げていこうと思います。ロータリーに感謝!

## 新会員のご紹介

敬称略



室蘭東RC  
上田 浩士  
令和5年3月22日  
小売販売業



砂川RC  
福地 真紀子  
令和5年4月5日  
調剤薬局



新札幌RC  
松野 和司  
令和5年4月5日  
電力供給



札幌手稲RC  
福島 有也  
令和5年4月8日  
司法書士



滝川RC  
篠原 実  
令和5年4月21日  
電気事業

### 月信委員会からのお知らせ

従来ガバナー月信に掲載されておりました以下の記事は、今年度は地区ホームページに掲載をしております。地区ホームページ (<http://rid2510.org>) をご参照ください。

#### 【ホームページ掲載記事】

- ・ガバナー補佐名簿
- ・ガバナー公式訪問日程
- ・地区カレンダー
- ・ガバナー事務所スタッフ・担当
- ・地区予算
- ・地区クラブ会長・幹事名簿
- ・地区組織図
- ・ハイライトよねやま
- ・コーディネーターNEWS
- ・ロータリー定期報告関係 等



RI 2510地区ホームページ  
QRコード



訃報

謹んでお悔やみ申し上げますとともに心からご冥福をお祈り致します



滝川 R C

坂本 和繁 会員

2023年3月24日逝去（享年64歳）

【ロータリー歴】

2001年7月5日	入会
2004－2005年度	米山記念奨学会委員長
2005－2006年度	クラブ会報委員会委員長
2007－2008年度	会計
2008－2009年度	監査
2009－2010年度	国際奉仕委員長
2009－2010年度	地区幹事
2011－2012年度	社会奉仕委員長
2014－2015年度	プログラム委員長
2015－2016年度	副幹事
2016－2017年度	幹事
2017－2018年度	SAA委員長
2020－2021年度	会長エレクト
2021－2022年度	会長
2022－2023年度	前会長

【表彰関係】

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー（1回）  
米山功労者マルチプル（3回）

## 表紙の解説（第5グループ）

### ロータリー親睦活動グループ バイク日本支部 IFMR(International Fellowship of Motorcycling Rotarians)

クラブ訪問をさせて頂いた時、色々な方々から「IFMR（International Fellowship of Motorcycling Rotarians）楽しいですよ」と言われガバナー補佐はバイクには乗らないですか？と聞かれた事もありました。（残念ながら私は乗れませんが）私の所属する札幌南RCにはバイク好きで知られた堀元雅司会員（地区ICT委員長）にIFMRに所属している事は承知していましたので聞いてみると、なるほどとても楽しそうな集いでしたのでその様子を堀元ICT委員長にお伝えして頂く事にしました。

IFMR札幌・石狩地区副支部長の堀元です。バイクを趣味にしているロータリアンの親睦活動グループとして2021年8月にRI2500地区で設立されました。このIFMRは世界各国に親睦活動グループとしてすでに有ったのですが、日本支部が無い事がわかり、北海道と言えばバイクの聖地と言われるくらいライダーに取っては憧れの地であり、その中心に有る富良野RCの会員がRIの認めたロータリーの親睦活動グループとして発足しました。

日本支部長は、富良野RCの富樫会員です。事務局として松田パストガバナーに活動して頂いて居ます。昨年2022年は、6月に旭川例会の近郊ツーリングからスタートして、7月に帯広例会、8月に北見例会、10月にはRI2510地区の滝川例会が開催されました。基本は、親睦活動ですから例会も楽しく同じ趣味を持つ仲間として、バイクやツーリングの話で盛り上がります。

翌日は、早朝から幹事クラブが練りに練ったコースを、バイクを連ねて楽しくツーリング、お昼にはゴールして全員でランチを頂いて解散となります。その後は、次回のツーリングを楽しみに各地域へ分かれて帰宅の途へ付きます。

現在、IFMRのFacebookは全国で登録者が170名を越えて、名簿では100名を超えるライダーが登録されています。昨年11月には、九州・熊本・大分RI2720地区でも例会が開催されて、他の地区でもツーリングが開催されて居るようです。まだ、バイクを趣味にしている会員がいらっしやと思います。ご興味がありましたらご連絡をお待ちしています。

第5Gガバナー補佐 平昌夫



## 表紙の解説（第5グループ）



**Rotary**  **District2510**